

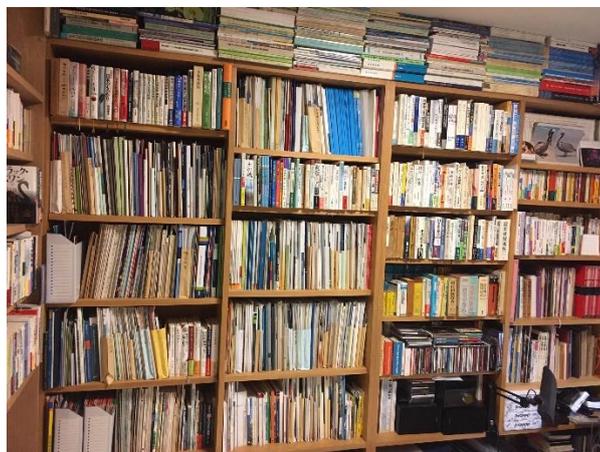
日常異変 コロナの私(15)

コロナのお陰で「改善」なった身近雑事

コロナ禍の予期せぬ効果

ゴールデンウィーク前から全く違う生活リズムになった。予定がなくなり、家にいる時間が多くなり、さて何をしようかと考えた。まずは本棚の整理から手を付けた。部屋の床に積んであった本を本棚に入れる隙を作らねばならない。要らない本を捨てる作業だが、これがはかどらない。あれもこれもと取り置けば本は減らない。決断と廃棄という作業は結構時間がかかった。

次に机の上の整理となった。なんでもかんでもただ物を置く台と化していた机は、長い間使えなかった。これを整理してみると久しぶりに広々としたデスクになり、勉強に取り組む小学生のように嬉しい気分になった。これこそコロナ禍の予期せぬ効果かなと苦笑せざるを得なかった。



生き返った書棚に満足

お陰様で「シュウカツ」を知る

整理に首を突っ込み始めると気になることだらけ。自分の部屋が終わると、14年前にマンションに引っ越して以来、一度も片づけていなかった家中の整理

に着手した。コロナ禍効果の第二弾である。

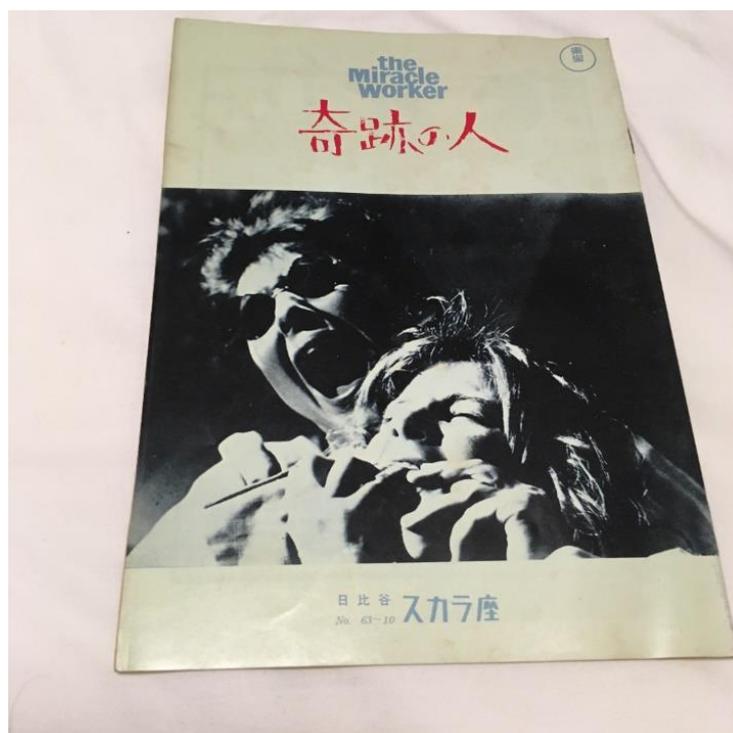
難航を極めた作業も 1 か月近くかかって、家の中にそもそも何があるかがわかるようになった。例えば、何の関係もなく分散していた防災用品を 1 か所にまとめたり、ごちゃごちゃになっていた食器棚を、使うものを出しやすいところにまとめたらキッチンが使いやすくなった。

毎日ごみを山のようにだしていたら、管理人から「シュウカツ」ですねと笑われた。「シュウカツ」は「就活」しか知らなかったもので、一応、辞書で検索したら「終活」があった！ 寡聞にして知らなかったが言われてみるとなかなかいい言葉で、その通りと納得してしまった。

初体験のメルカリにも成功

いろいろ処分をしているうちに、ただ捨てるのもよくないと気が付いた。映画のプログラムがやまのように出てきたので、出品・購入システムの「メルカリ」に出すことにした。初体験なので半信半疑だったが写真を撮って出したら、薄いプログラム 10 冊が 1,000 円で売れたのでびっくり。

次の人に活用できるなら捨てるよりもいい。まだ沢山あるので、だんだん出していこうかなと画策中。続いて 20 年以上ケースを開けたこともなく、スペースだけとっていた子供のバイオリンも、試しに専門店に持参したら売却成功。いつの間にか、荷物を積んでいて「開かずのドア」だったの部屋のドアも開くようになった。コロナ禍効果はどんどん広がる。



メルカリで売れた映画のプログラム

第3弾はお料理挑戦

片付けが進んで次に考えたのは、以前から思っていたがしなかった料理。長男の私は妹が2人いて、母親も料理が好きだった。しかしこれまで料理にタッチしたことがなく、家内に何かといわれながら今まできた。台所で作るといえば、おそばやスパゲッティを茹でる程度。

そこでチャーハンやパエリアに挑戦したらうまくいったので、自分でも驚いた。今の世の中、みじん切りから始まってすべてのことがインターネットの動画付きで解説されていることには関心。レシピ本も購入したので、結構、料理が楽しみになる気配はある。よく考えたら、私は21世紀構想研究会主催の全国学校給食甲子園の副実行委員長だった。

レコードに聴き入り満足

次に取り組んでいるのが、オーディオの再構築で、各種音源を単にちゃんと聴けるようにしたいということ。30~40年前に購入したものばかりなので、どれも壊れ始めている。アンプは数年前に壊れ、昨年、真空管のアンプに代えて悦に入っていたところ、レコードプレーヤーがうまく動かなくなった。

レコードは幸い処分したことはなく、まだ100枚以上あるので近くこのレコードプレーヤーを売って替えることにした。値段は1000円程度らしいが、粗大ごみで出すより賢いと思う。

レコードを聴いていると、音はやっぱりCDより気持ちがよい。それにしても今またレコードを買う人がいるというのも面白い現象だ。片面20~30分程度なので、ジャケットから出したり入れたり結構面倒なのだが、それがいいのかなと思いついた。そのうちジャケットの素晴らしさは、ひとつのアートであることに気が付いた。CDは入れものもつまらないです。

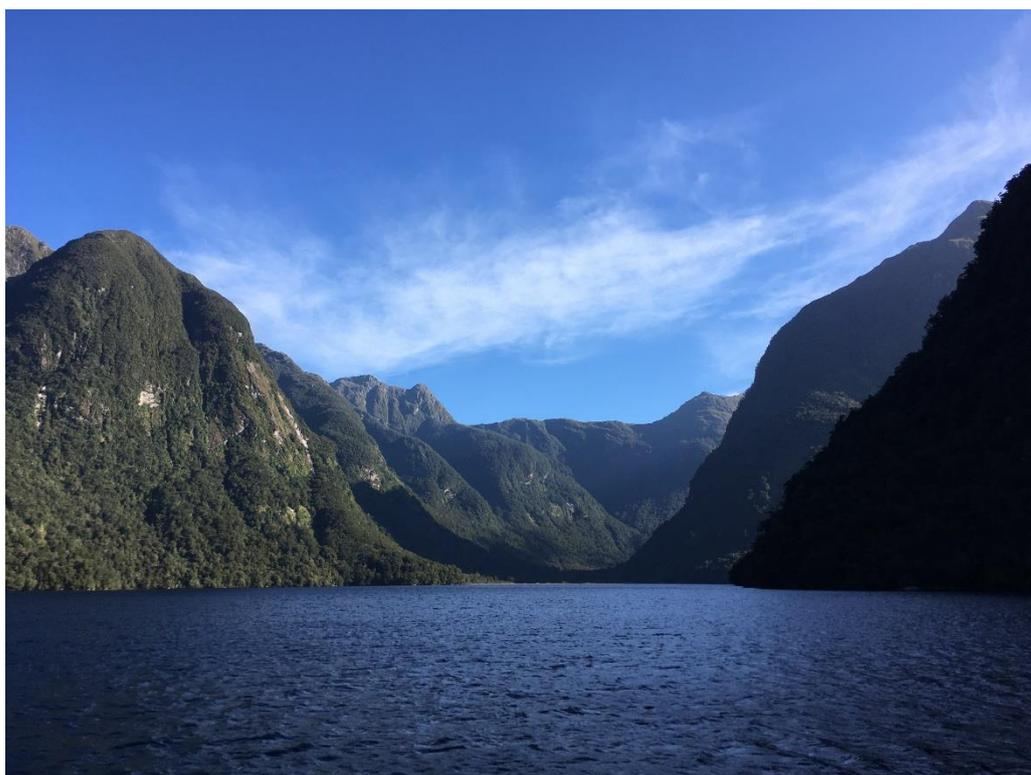
コロナを知らずにニュージーランド旅行を満喫

1年前からニュージーランド南島観光を計画し、2月24日に出発し、3月7日に帰国した。左側運転、しかも車がほとんどいないので1,600キロくらいドライブを満喫した。ヘリコプターにゆられながらフィヨルドを眺望してから船のデッキに到着し、外洋に出てアザラシやイルカを見たりしてからフィヨルドに戻り、夜は真っ暗になってからデッキで温水プールにつかって横たわりながら、満点の星空を見ると流れ星や人工衛星の動きまで見える。初めての体験ばかりだった。

観光中にニュージーランドでもコロナ感染者が1人でたというニュースを聞いたが、特に何の動きもニュースではしていないように思えた。しかし、調べてみると次のように書いてある。

『2月3日の時点で、外国籍の人全員を対象に、中国からのフライト（トランジットを含む）での入国を禁止した。2月28日にニュージーランド初の感染者が確認されると、すぐに入国禁止対象国を拡大。さらに3月19日には、自国民や永住権保有者以外は、全世界どの国からも入国を禁止とした』

そういえば、旅行中、中国の人を全くといってよいほど見かけなかった。世界の観光地はどこでも中国からの旅行者であふれているはずなのに、彼らはニュージーランドには関心がないのかなと勝手に思っていたのが、そもそも入れなかったわけだ。とにかくニュージーランドを出国するまで、何の問題もなく楽しく旅行をしたのが、帰国したら、コロナ騒ぎの内外での拡大を聞きただ驚くばかりで、本当にラッキーだったと思う。



ダウトフルサウンド フィヨルド

リアルワークショップを開催

コロナ感染拡大のさなかの6月25日、私が企画した日本工学アカデミー主催の「政治家と研究者を混ぜると、何が起こるか？」というワークショップを開催した。

衆議院議員会館会議室の300人の部屋をとったので、緊急事態宣言解除後とはいえコロナ感染中だし、がらがらだったらどうしようと思っていた。ところが75人もの参加があった。ソーシャルディスタンスで着席してもらおうと部屋が満員のようになった。

テーマは政治家と科学の専門家の関係だ。コロナで専門家への期待が大きくなっているが、政治家と専門家の役割分担がはっきりしないし、両者の議論の内容がしっかり公開されていない。このテーマはさらにフォローしていく必要があることを強く感じている。



左から角南モデレーター、大野敬太郎議員、伊佐進一議員、永野



ソーシャルディスタンスで一杯になった衆議院議員会館大会議室

以上、身边雑記ばかりになってしまったが、コロナ禍をきっかけに社会との新しいかかわり方や新しい楽しみ方を探索するきっかけになったことは間違いない。

永野 博